

地域づくりから見る文化的景観

神吉 紀世子

京都大学工学研究科建築学専攻

日本建築学会農村計画委員会農山漁村文化景観小委員会・前主査

0. はじめに（事例フィールド紹介）

1. 見た目では扱えない「景観」：文化的景観（Cultural Landscape）とは

- ・地理学概念から遺産のカテゴリー概念へ
「分析・把握のための概念」→「保全のための計画の対象」
- ・「環境」＋「人の営為の影響」により形成される地域の成り立ち
- ・Engelhardt の提唱する遺産保全のパラダイム進化（2005年頃～）
「特別に選ばれた物的対象の保護」→「生きている地域性の総合的な持続」
- ・文化的景観は、見た目上の美醜ではなく（一見わかりにくい）地域の成り立ち凍結保存ではなく、地域性に沿った変化・進化を前提とする成り立ちの認識・評価のあり方（保全の目標）・保全の実態化「美しい」から「興味深い」へ

2. 事例：重要文化的景観「日根荘大木の農村景観」から

- ・中世から現代までが融合する「見えにくい」景観
- ・文化財保護法＋景観法 の積極的意味（残るモノゴト、地域らしく変化するモノゴト）
- ・地域は実際に何に取り組んでいるのか 一見では「景観」関係にみえない重要な営み

3. International Field School という取り組み方（インドネシアを中心に）

- ・International Field School on BOROBUDUR *Saujana* Heritage の10年（2004年～）
（インドネシア・中部ジャワ・ボロブドゥール寺院周辺の広大な農村地域）
- ・Bali Internship Field School for *Subak* (2015～)
「世界遺産」という制度の問題を乗り越える
「文化的景観」の「興味深さ」を扱う
実際のステークホルダーと協力し、広いコミュニティを育てる
短期的課題に直接携わる

4. 景観保全（Conservation）の概念進化と都市・農村計画

- ・日本建築学会：Dynamically Authentic な変化を前提とする保全
＝Evolutionary Conservation（営みの継承、地域コミュニティの主体性の重視）
- ・P.Falini 教授（伊）地域の成り立ちを修復・再生する「整備事業」を含める保全
＝Active Conservation（再生整備における適及的かつ創造的デザイン）
- ・（文化財として指定するかどうかの論点をはずせば）あらゆる地域は文化的景観（Cultural Landscape）として認識できる
- ・保全（Conservation）という概念のなかに、地域の変化・進化や修復・再生という、アクションが含まれる。しかも、それらが地域にとっては「普通の延長」であるほうが、持続性が高い。
→ Planning（計画学）の役割
景観評価の総合性の追求
保全の実態化（Engelhardt の提唱）のための都市計画・農村計画の役割
→ 持続性の担い手である地域への幅広いアシスト技術としての「Planning（計画学）」
- ・「歴まち（歴史的風致維持向上計画）」に潜在する制度的面白さ
→ 複数の価値の（再）発見・記述化・地区の重なり →都市・農村計画との一層の連動を